

実施計画事業評価調査

評価対象年度 令和2年度

事業コード	21101311	事業名称	海浜学園施設運営費	事業区分	通常事業
担当	学校教育部	学務課	問い合わせ先	258-1110(18711)	新規・継続

1 事業期間・根拠等

事業期間	昭和 15 年度 ~ 年度
第5次川口市総合計画	II 子どもから大人まで“個々が輝くまち” - 1 子どもがのびのび学べる環境づくり - ① 幼稚園・小学校・中学校教育の充実
根拠法令等	川口市立大貫海浜学園設置及び管理条例

2 事業概要

事務分類	自治事務のうち任意のもの	実施形態	一部委託
事業対象	事業の対象(市民等、団体、もの)	受益者(最終的に受益を受ける人)	
	市立小学校52校の5年生	同左	
事業の概要	事業の目的(何のために)	事業の内容(事業期間を通して何をやるのか)	
	児童に海浜の自然の中で集団生活を体験させ、心身の調和的発達と個性の伸長を図るとともに、協力的実践的な生活態度と豊かな情操を養うことを目的とする。	小学校の教育活動の一環として、5月から11月までの期間(7・8月除く)に小学校5年生を対象に、市立大貫海浜学園で2泊3日の校外学習を実施するもの。	
令和2年度の実施内容	具体的な実施内容(当該年度に何をしたのか)	主な実績	
	令和2年度は新型コロナウイルスの影響により校外学習を中止した。一方、児童が利用していない期間を有効に活用するため、非常用発電機及び非常用放送設備の改修工事、施設の点検及び修繕、備品の整備、並びに庭の整備などを積極的に行った。	項目	実績
		参加児童数	- 人
事業の成果【定性的評価】	新型コロナウイルスの影響により校外学習を中止したものの、児童が利用していない期間を有効に活用するため、施設の点検及び修繕、備品の整備等を積極的に行うことができた。		

3 事業活動・成果の状況

指標①	名称		指標・目標値の説明(算定式)			
	単位	指標の種別				
	目標値	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
	実績値・達成状況					
指標②	名称		指標・目標値の説明(算定式)			
	単位	指標の種別				
	目標値	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
	実績値・達成状況					

4 年度別事業費(単位:千円)

予算費目	一般会計	10款	02項	03目	001細目	01細々目	海浜学園施設運営費			
年度	平成30年度	令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		
予算額(A)	73,098	66,150		20,661		75,337		75,337		
決算額(B)=(C)+(D)	65,029	65,153		18,430						
財源※	特定財源(C)	11,340	11,387		0		11,584			
	一般財源(D)	53,689	53,766		18,430		63,753			
概算人件費(E)	12,640	12,640		12,640		12,640		12,640		
従事職員人数(人)	常勤	再任用	1.60	0.00	1.60	0.00	1.60	0.00	1.60	0.00
総事業費{(A)又は(B)}+(E)	77,669	77,793		31,070		87,977		87,977		

※評価年度以前は決算額(B)の財源を、評価年度の翌年以降は予算額(A)の財源を表示しています。

5 視点評価

視点	評価項目	判定	視点評価	視点	評価項目	判定	視点評価
必要性	現在の市民ニーズ	高かった	15 /15	有効性	期待どりの成果	期待どおり	13 /15
	市関与の必要性	高かった			施策(上位目的)への貢献	高かった	
	将来的な市民ニーズ	見込める			目的に対する事業内容	適正	
効率性	コストに対する成果	高かった	15 /15	公平性	受益者の資格条件	適正	11 /15
	業務プロセス改善	行った・既に行った			受益者負担の水準	不明	
	民間活用	行った・既に行った			対象者への周知	十分行った	

6 総評価【定量的評価】・今後の事業展開

総評価	事業を実施する上での課題及び改善方策	今後の実施方向性	
54 /60	設備等が経年劣化などで改修が必要となっている。今後、施設の長寿命化を図るため、個別施設計画を参考にしつつ、施設・設備の更新を行っていく。	3年度	現状維持で実施
		4年度	現状維持で実施
		5年度	現状維持で実施

実施計画事業評価調書

評価対象年度 令和2年度

事業コード	21101501	事業名称	少年自然の家施設運営費	事業区分	通常事業
担当	学校教育部	学務課	問い合わせ先	258-1110(18711)	新規・継続
					継続

1 事業期間・根拠等

事業期間	昭和 37 年度 ~ 年度
第5次川口市総合計画	II 子どもから大人まで“個々が輝くまち” - 1 子どもがのびのび学べる環境づくり - ① 幼稚園・小学校・中学校教育の充実
根拠法令等	川口市立水上少年自然の家設置及び管理条例・川口市立水上少年自然の家設置及び管理条例施行規則

2 事業概要

事務分類	自治事務のうち任意のもの	実施形態	一部委託
事業対象	事業の対象(市民等、団体、もの)	受益者(最終的に受益を受ける人)	
	市立中学校26校の2年生	同左	
事業の概要	事業の目的(何のために)	事業の内容(事業期間を通して何をやるのか)	
	豊かな自然環境の中で、心身ともに健全な少年の育成を図ることを目的とするもの。	中学校の教育活動の一環として、5月から11月までの期間に中学校2年生を対象に、市立水上少年自然の家で2泊3日の校外学習を実施するもの。 また、中学校の校外学習で利用しない冬期は、市民等を対象に一般利用を行っているもの。	
令和2年度の実施内容	具体的な実施内容(当該年度に何をしたのか)	主な実績	
	令和2年度は新型コロナウイルスの影響により校外学習及び一般開放を中止した。一方、児童が利用していない期間を有効に活用するため、ボイラーの改修工事、施設の点検及び修繕、備品の整備、並びに庭の整備などを積極的に行った。	項目	実績
		参加生徒数	- 人
事業の成果【定性的評価】	新型コロナウイルスの影響により校外学習及び一般開放を中止したものの、児童が利用していない期間を有効に活用するため、施設の点検及び修繕、備品の整備等を積極的に行うことができた。	一般開放利用者数(延泊数)	- 泊

3 事業活動・成果の状況

指標①	名称		指標・目標値の説明(算定式)			
	単位	指標の種別				
	目標値	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
	実績値・達成状況					
指標②	名称		指標・目標値の説明(算定式)			
	単位	指標の種別				
	目標値	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
	実績値・達成状況					

4 年度別事業費(単位:千円)

予算費目	一般会計	10款	03項	03目	001細目	01細々目	少年自然の家施設運営費	
年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度			
予算額(A)	131,458	130,186	73,029	136,077	136,077			
決算額(B)=(C)+(D)	124,955	122,927	65,447					
財源※	特定財源(C)	12,159	12,040	0	12,319			
	一般財源(D)	112,796	110,887	65,447	123,758			
概算人件費(E)	20,224	20,224	20,224	20,224	20,224			
従事職員人数(人)	常勤	再任用	2.56	0.00	2.56	0.00	2.56	0.00
総事業費{(A)又は(B)}+(E)	145,179	143,151	85,671	156,301	156,301			

※評価年度以前は決算額(B)の財源を、評価年度の翌年以降は予算額(A)の財源を表示しています。

5 視点評価

視点	評価項目	判定	視点評価	視点	評価項目	判定	視点評価
必要性	現在の市民ニーズ	高かった	15 /15	有効性	期待どおりの成果	期待どおり	13 /15
	市関与の必要性	高かった			施策(上位目的)への貢献	高かった	
	将来的な市民ニーズ	見込める			目的に対する事業内容	適正	
効率性	コストに対する成果	高かった	15 /15	公平性	受益者の資格条件	適正	13 /15
	業務プロセス改善	行った・既に行った			受益者負担の水準	適正	
	民間活用	行った・既に行った			対象者への周知	行った	

6 総評価【定量的評価】・今後の事業展開

総評価	事業を実施する上での課題及び改善方策	今後の実施方向性
56 /60	設備等が経年劣化などで改修が必要となっている。今後、施設の長寿命化を図るため、個別施設計画を参考にしつつ、施設・設備の更新を行っていく。	3年度 現状維持で実施 4年度 現状維持で実施 5年度 現状維持で実施

事業コード	21101311/21101501	事業名	海浜学園施設運営費 少年自然の家施設運営費
部会名	第二部会	担当課	学務課

I 定量評価（評価の各観点について、一定の基準に基づいた数値による評価）

	評価の観点					選択肢	
	①趣旨・目的及び達成手段	②事業の効果	③事業の効率化	④課題解決への取り組み	⑤今後の事業の方向性		
A委員	2	4	1	2	2	4 適正	適正な事業運営がなされている
B委員	2	3	2	2	2	3 概ね適正	工夫や改善の余地があるが、概ね適正な事業運営がなされている
C委員	3	3	2	2	2	2 改善の必要あり	概ねこのままの事業運営で差し支えないが、工夫や改善が必要である
D委員	-	-	-	-	-	1 抜本的見直し	抜本的に事業の運営を見直したほうがよい
E委員	2	3	2	2	2		
部会全体	2	3	2	2	2		

II 定性評価（評価の各観点について、意見やアドバイス等のコメントによる評価）

No.	評価の観点	評価コメント
1	①趣旨・目的及び達成手段	適切な実施内容であるからといって、適切な手段であるとは言えない。運営費のあり方については要改善。
2	①趣旨・目的及び達成手段	川口市のみが直営施設を二つ有さねばならない理由はない。他の達成手段を考えるべきである。
3	②事業の効果	教育的効果は良いが、費用対効果を考えると疑問がある。
4	③事業の効率化	他団体と比較しても、施設維持費が非常に高額である。また、施設の老朽化が進み、施設維持費が高むことが予想されることから、施設のあり方の見直しを図るべきである。
5	③事業の効率化	両施設の維持に固執してはいないか。今後、教育局内で課題に対する改善策を検討するとしているものの、その時期については具体化されていない。
6	④課題解決への取り組み	課内で課題解決への検討を進めていくとのことだが、課題を過小評価しないよう留意する必要がある。
7	④課題解決への取り組み	大貫海浜学園と水上少年自然の家の施設運営費は分けて考える必要がある。
8	④課題解決への取り組み	費用対効果を考えると、どうしてもコストがかかり過ぎていると感じる。さいたま市との比較において、施設に係る歳出決算額はさいたま市の方が多いが、児童生徒数から割り返すと、水上少年自然の家の施設に係る歳出決算額が割高であることがわかる。
9	④課題解決への取り組み	課題は理解されているが、対策は遅れている。

No.	評価の観点	評価コメント
10	⑤今後の事業の方向性	水上少年自然の家について、事業の必要性は認めるものの、このようなデザインの建築物は維持費が通常より高額になりがちである。将来のコストを計算のうえ、代替案を検討すべきである。
11	⑤今後の事業の方向性	維持費を削減できないのであれば、一般貸出により歳入を増加させるか、二つの施設を一本化する等の長期的計画を視野に入れた検討をすべきである。
12	⑤今後の事業の方向性	将来、川口市の人口減少も想定される中で、施設に係るコスト削減は喫緊の課題である。まず2施設を1施設に減少すべきであり、また民間旅行会社の活用や、受益者負担の増額も検討すべきである。
13	⑥事業全体を通した総合的な評価	課題は理解されているが、対策は遅れている。早急に対応すべきである。

【評価結果まとめ】

①趣旨・目的及び達成手段	
2 改善の必要あり	施設運営費のあり方については、改善の必要がある。かつ、なぜ施設を2施設所有する必要があるのかという根本的な問題もある。2施設所有する理由がないのではないかという意見もあった。
②事業の効果	
3 概ね適正	
③事業の効率化	
2 改善の必要あり	コスト面の問題となるが、施設運営費が大きすぎる事が挙げられる。修繕費は今後増大することが予想されるため、抜本的に見直すべきである。
④課題解決への取り組み	
2 改善の必要あり	課題は把握しているものの、その対策が遅れていることは問題である。検討中だけでは済まされない問題である。また、2施設を切り分けて検討し、1施設に集約するという結論を出す時期ではないかという意見があった。
⑤今後の事業の方向性	
2 改善の必要あり	特に水上少年自然の家については、コスト面を再三議論したが、やはり巨額のコストは理解されにくい。よって水上は見切りをつけても良いのではないか。また、川口市の人口は、当面は現状維持とされているものの、減少傾向となることは確実であろうから、二つの施設を集約することや、民間施設を活用することについても検討すべきではないかという意見もあった。
⑥事業全体を通した総合的な評価	